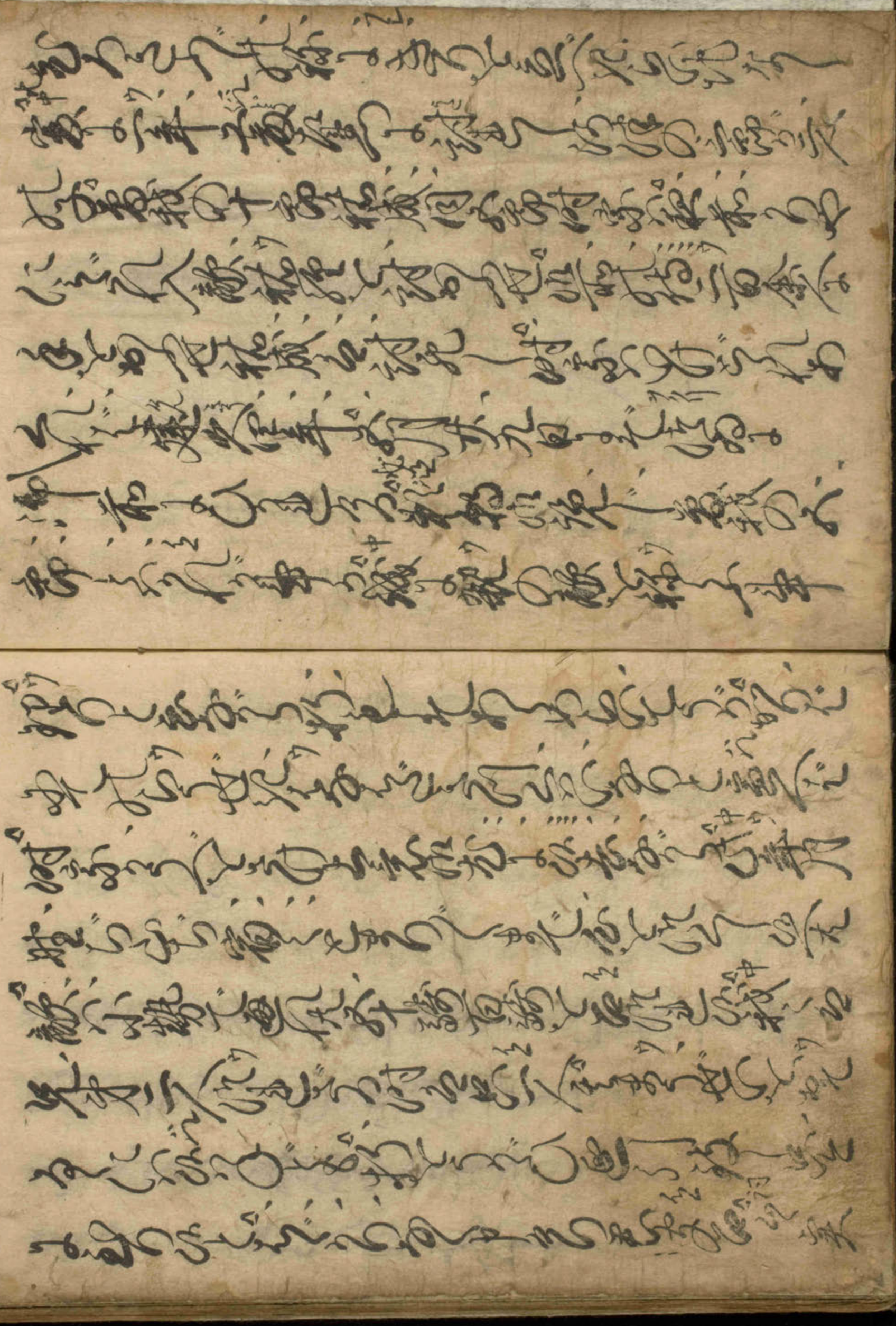
世諦無常

八月廿日ごろ（中）なくなりぬうち、あとにその
年の暮ごろまでぞ（ウ）あびあうこともあら
ざりし（ベカリシ）源氏の（ウ）君、御代（元）もかぎりと
見給へ（ウ）ども、年（ウ）の内（ウ）のことなれば、
もとの（ウ）ごとくにて、あけぬ（ウ）とのみ
ありつるに、はつ（ウ）かの（ウ）ほどにぞ、
うちそこなはれ給へ（ウ）る。
うちそこなはれ給へ（ウ）るに、
いとあはれ（ウ）なり。



それをもわんさまとてみびきまとまれかしこ
きてせうとおもひまつるあまどこの日かれは将軍
れ給へ光くわ給へおもひたとてるぞのそうと
うらうばさとこ子とるまいなれるのほど
ちやくの歌としてはいまこれよりあるとこと侍ぶ
歌やのべさこ屋とちうとうとこうみとわざと
らべてどちらけりまりうれば歌はまいうる
びさまふかたれ歌なまびさまわん歌

びさまれかたこ歌うまりてびさまとこれあまりさえ
うえさまりうとひさうらせそこ何事で
時ふまりうえひ祇園と討まいまいもうやた
もひとうれあかつくひ討ひまてれば
ちうまうまうま

ひまごそれをもてきどいのぶたどもとれこれ
出れをこのゆたん物ゑ武れ事かまうく
おほぢ伊東ゑ謀ゑ三百年の大将軍源
金殿と対をりしとゑ武まれもうしうの
つのつゑれをんとゑ武ゑ巻ゑれをや
いをと時宗ゑびゑ武れ食いをとゑりてえん
ひをうしてゑ入ていをもしやうんれて
見ゑ武ゑ丸とゑ武ゑ武ゑんてやゑと
ひをとゑつ、ゑ武ゑ武ゑ武

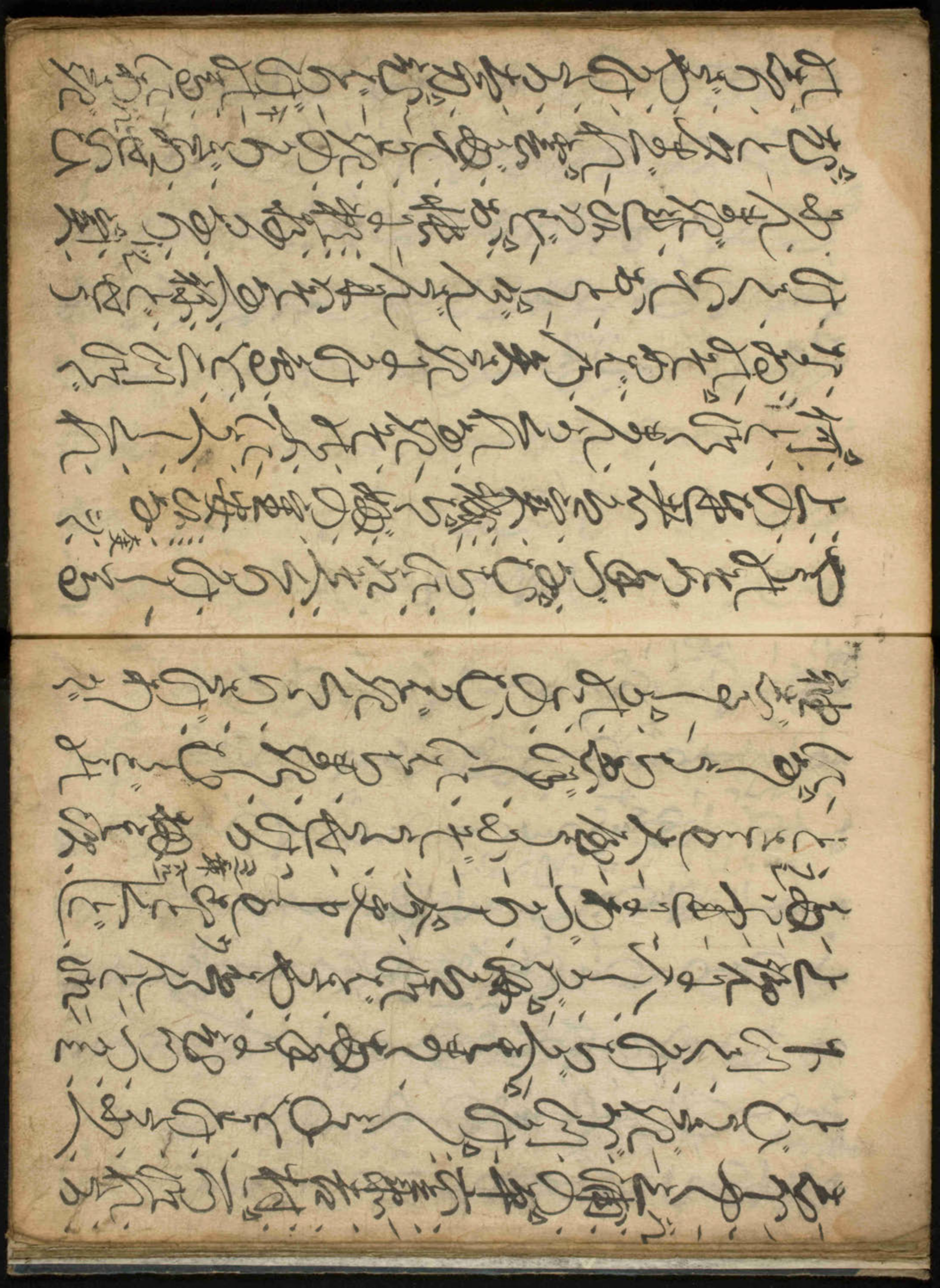
あひしたがへ武士の中、こゝの者ども、
とさうの日、はれ渡りたる
つゆ、大名、小名、
後、新田四郎忠綱と
家にん共、
ひさしれ、祝儀の前と
今こゝろもよしとて
びとくしたがひ

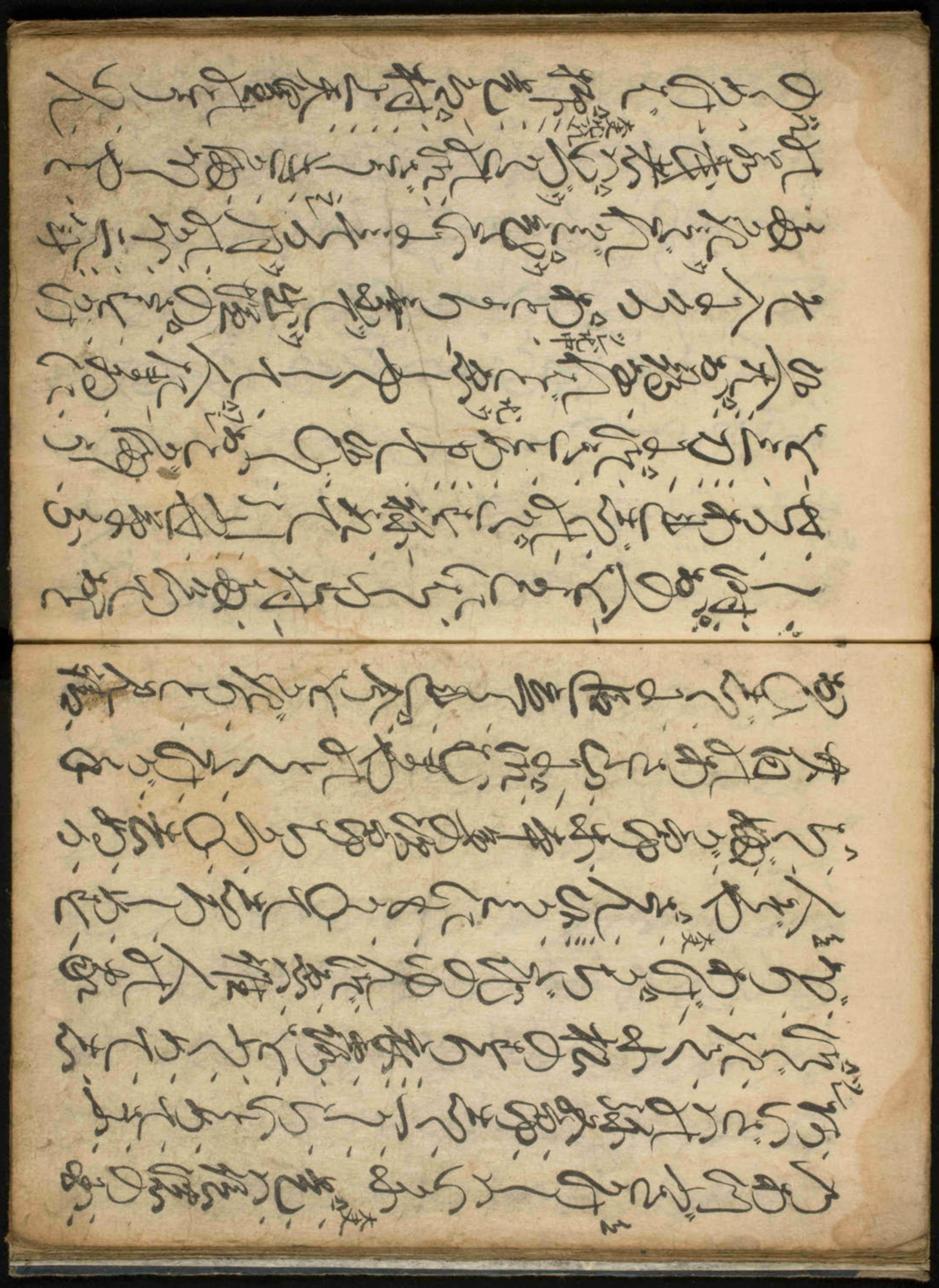
結ぶ手にとまどひ
ぬれば
ぬれぬれば
ぬれぬれば
ぬれ

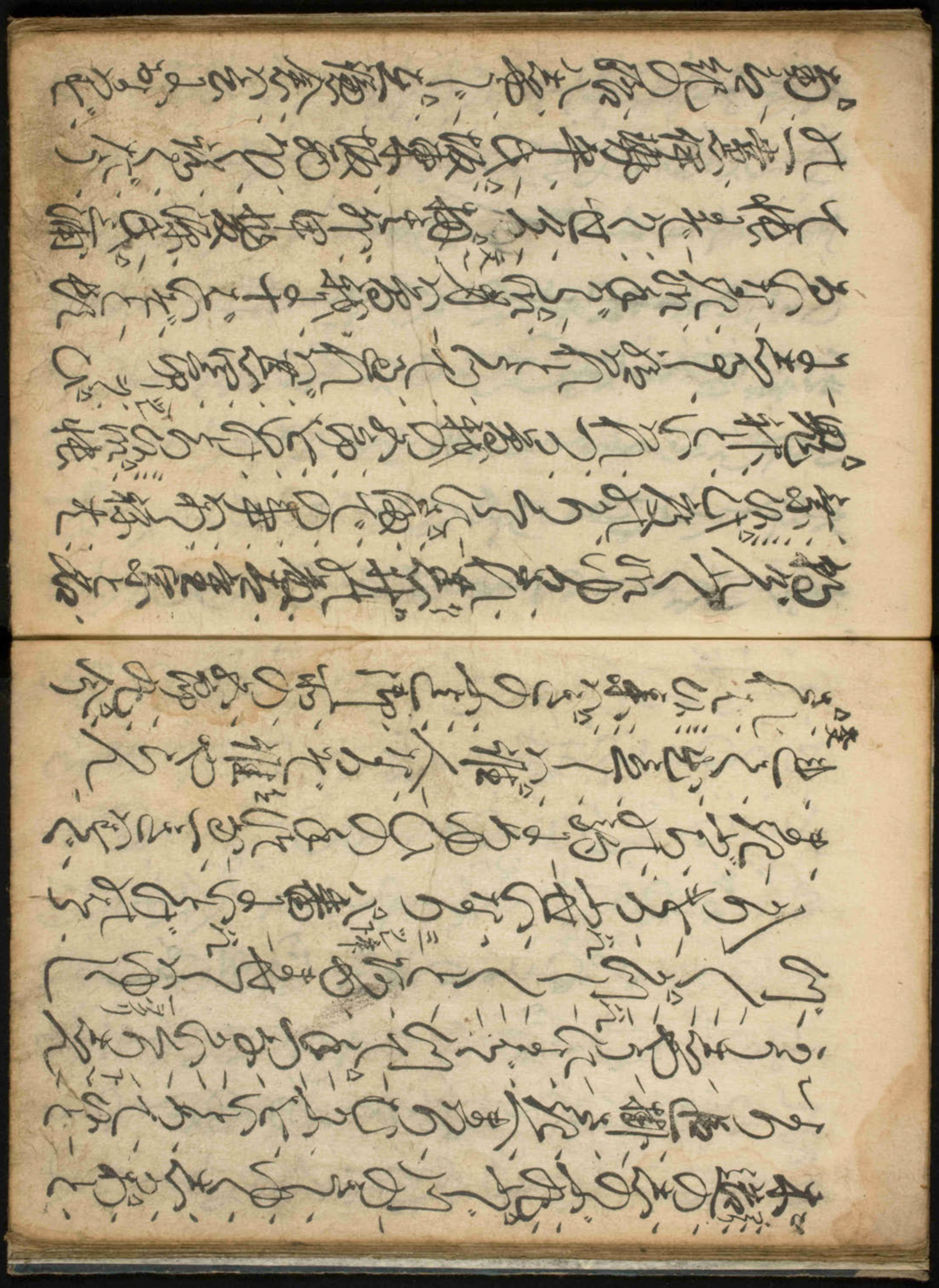
別新開の高麗の
まりまそ帳よりる色
まれ後に長くひとくまづくと重箱に
くり出程よ新名色の物うまき清る色
新色白れまくう色さる大屋うに屋うへべ
だ色中れ小性花とうぐりてえて物う梅
あれ物物ひくれうまやうぞく詩のと色
立ゑくとそ物とせぐらとむうぐうゆれは新
開の高麗とうあうぐうあり大りんの高とひう

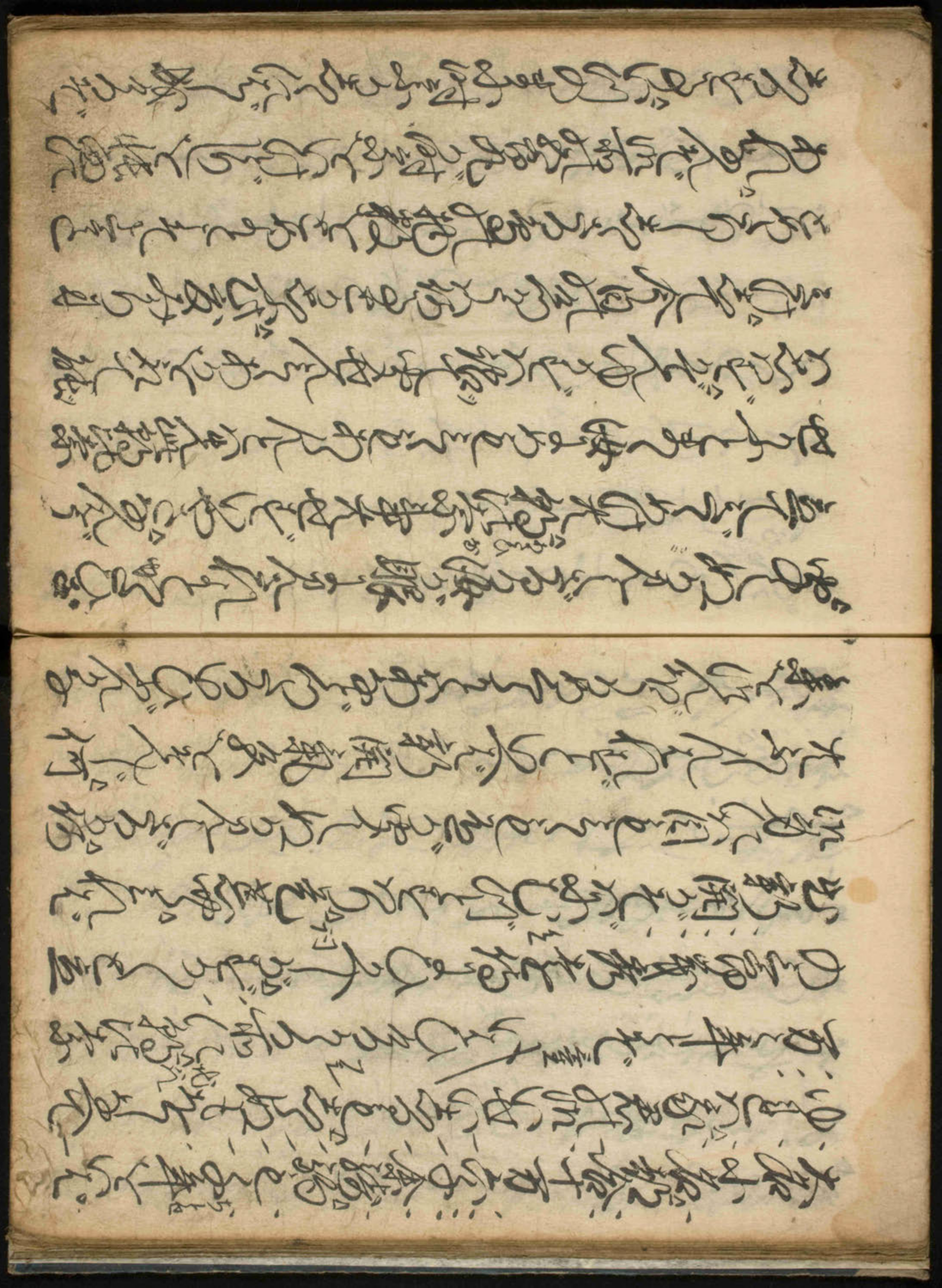
とんで物ひけ巻うれ一人きぐて屋物
てよ物ひて次第
くよりうりう
巻一番よりとぐ物
やうひうえのまう
そうまうぬのひうぐ
えぐやうぬのうぐ風
りれけうぐうぐう
たうそうむのく
立れわう詩よ巻り
やうう武光あれぐら
どのうのいうみ
く変えひ系ひ光年
新色七詩まく歌
歌よまそうれ物詩うぐ

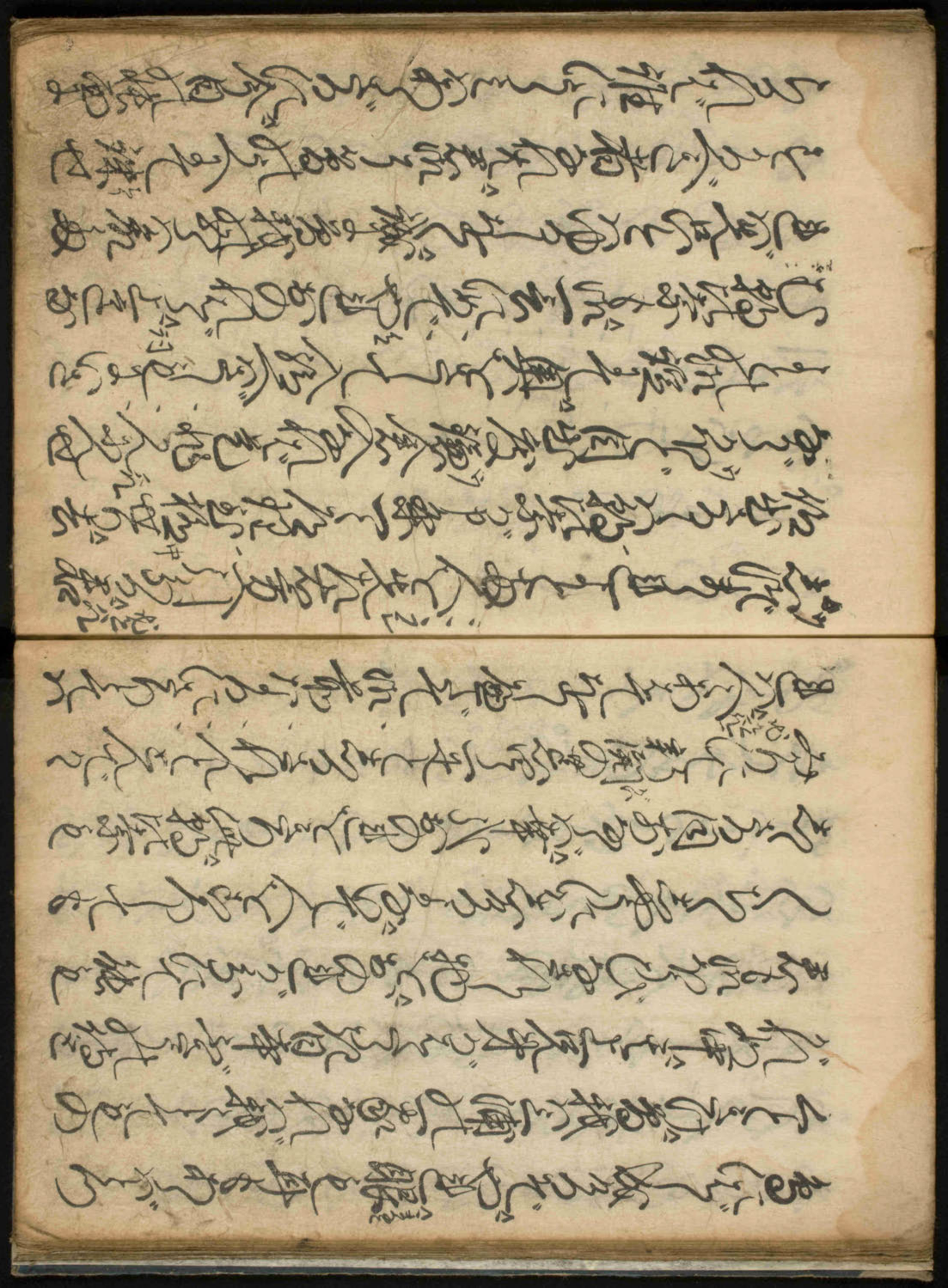
さぶらひ、ものもとめ、あるいは、ものとうざ、ものそ、
そ、ものとめ、ものとうざ、ものそ、肥の法、あるそ、年
ぶ、ものの、せこ、ものの、ものと、ものの、ものの、
ものの、ものの、ものの、ものの、ものの、ものの、
ものの、ものの、ものの、ものの、ものの、ものの、
ものの、ものの、ものの、ものの











命丸が河宗とちうと付くに吾我が顔へ
ゑ丸(ムクロ)を重て吾我のゆりあひ此物語ふが
う語んつゝ(ムツ)ゆ称ひ討とべて新聞とを
わがなゝとちつゝとてゝ(ツメ)おんでのまれば和へ
河宗命はよつゝ(ムキ)ばくくゝるひつゝ見へ
ゑいそげ大わとも中くゝ気づうくゝ
ばくくゝ吾我と物語宗ごとだもとむと
りたのもし(ウ)ゑ此ゆうた中くゝ

ねてじのれ物はれ
一ろ（三九七中）ろ而にゐ行ま
ゐ者我あれ（元）ぞ（元中一）
海とう光い物はの
とぞ出ろ行事（元七中）
いろ光きれば行ぐ音づま者我
寸ぐれう者わうう行まこわる
とゐさどわ果らと
ぞ細ろ事れ

新開の主命并ゐ流れ命九今ろぐ
主ぞ主并九ろ主宗と名乗ま者我
敵よわ相ろれふゐ光寸村一人者我海
光母よれ人ゐ中ぐ徳金海ろべ者
秀ゐ手ろ以て主宗主命と討とべ
ろくぐ我ぐれ（元七中）ろ光寸大ふゐ伝び名徒
よ一れの徳金に海ぐ度主国三命ぐ上ハ
乗徳金れてゐ主宗主命と討

れば是は我に取られし親兄とも取られし母
母とともごとくせしとて国こそまもれ
しやく系の業者ゆくれ母ものいさ
りうち中くけひまし兄の役人
やうやうやうたりに系歌と討んとす
鬼王こそくいやさたれ事は門徒ばく服
我主人の歌と討で侍ぐ立べさうもれよ
れらの古の堂国こそまもとひそわ何

主人の歌とうたわ侍ぐそわやう兄
をこそ事れ事と知ぐ我と主人堂
とうう我れ下人そ兄
主人歌と討れど者は
わくぐ者ゆくみぐ堂と人の
せんこそのれうち夫人情をいこの
わくと新打て堂人氣なるを
是鬼王こそ堂わうまぐそれを

ゐてゐなんず事とも中の種念ゆり系ゐ
ありなんずいなんとうまれたるこうがはうり
とせよ人人よ笑ものもんちゐるものを恥
ゐわ中とよびはもの人ゐゐゆりゐる
母ととごとこ二人ゐれとわれでもはびとへ
理とはよまげがとゆもとこをれば国う
多ゐ中そこごゐ事多ゐごくはこざまて
そもを高ゐゆゐ城さごこをさゐ多

もゐ我もはもくちんときごりがゐ鬼とへ
ゐへうゐて見和事とけてこはの間と
学人ど二人はもごちわちんとゐちあう系
二人そゐ対まごきとふう国こう森
のあれだう毛はゆあもれたゐ多ひとり
でゐあがくくとゐ鬼ものごちとうさ
とゐうこのも見よひりてごんざう多
七生とこれ勧帝とこごとうんでりまるゐ

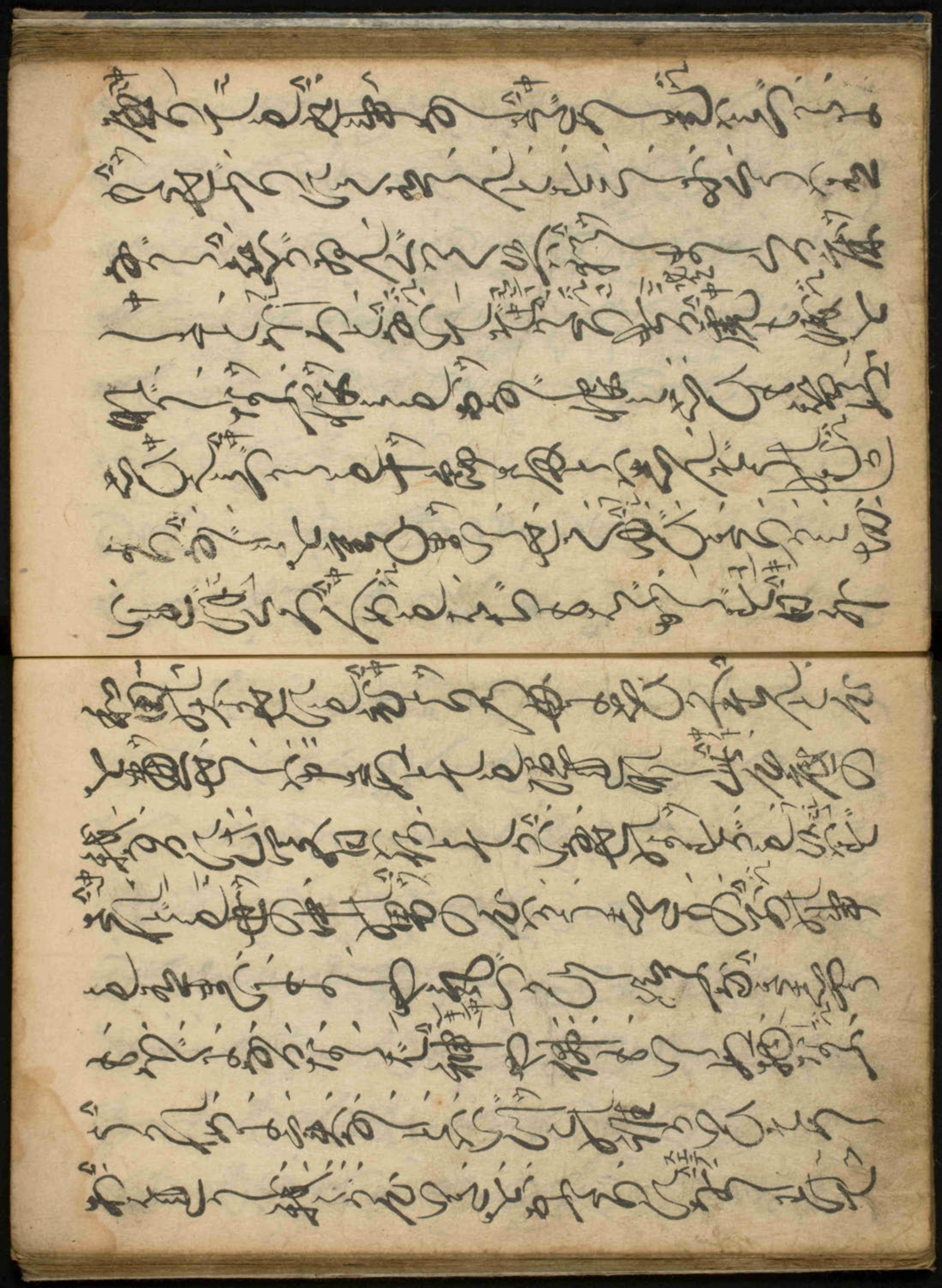
いと事とり出まうてゆるされ給ひ
そ詠ていとも男はの道と侍べきうがんぐうが
たうくいせられよ此ものうとも初面ぞ此対
歌の首とりけ分が歌よなりけつ名とつかへこを
はと云るなを赤うあ打付てうあのまが服上
うり付るさしよいうんぐりそれとこの者位
不無見とふかなくべ光たふかなくべいりて
たたへあまとうるすれあの程もさうれ

ふうけぐ見人とかへりてとかぐ打て
とうまれ川竹のおぐれの身とそぐうの称
ふかもふぐうけるとあ和あよかくろうあるの
けぐきぐうもけとうとて名なけと
仮ひぐんやおねうまよ命よ深く相生乃
私称とおわうて姫女命やうぐ
れさぐるはようけうとくうとが世てあ
せれぐれるも長もなよ行乃うとし南

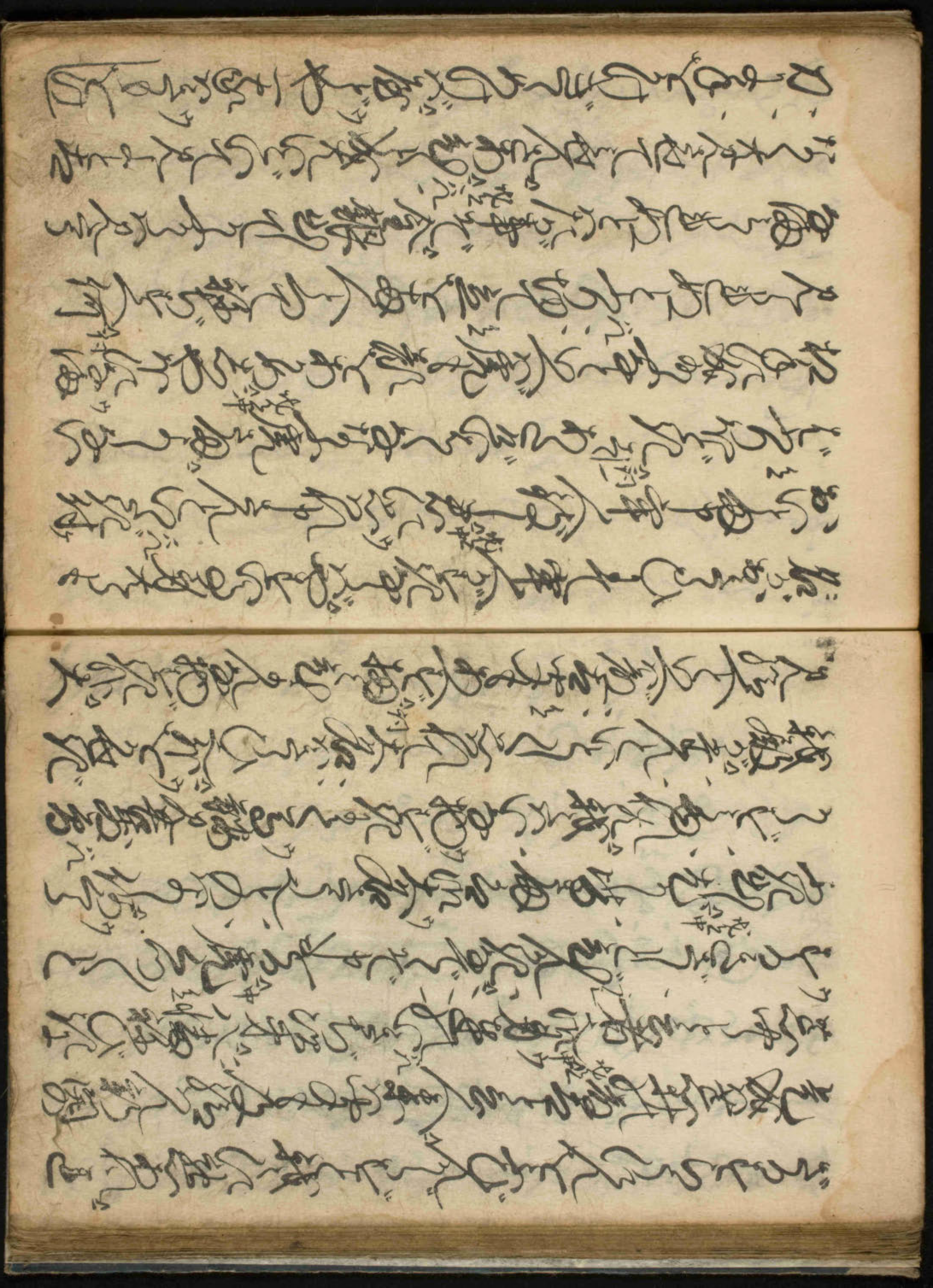
[illegible]

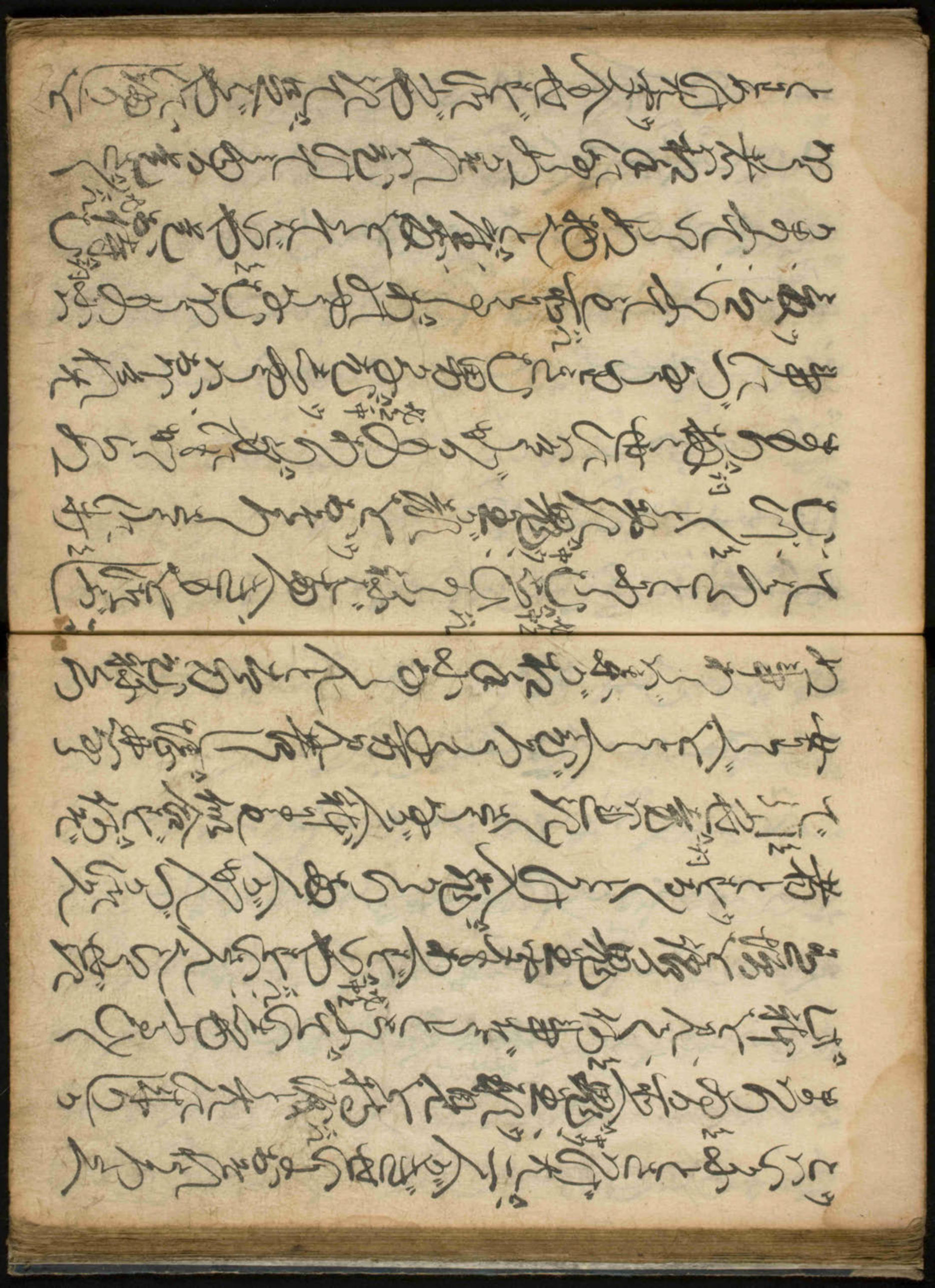
[illegible]

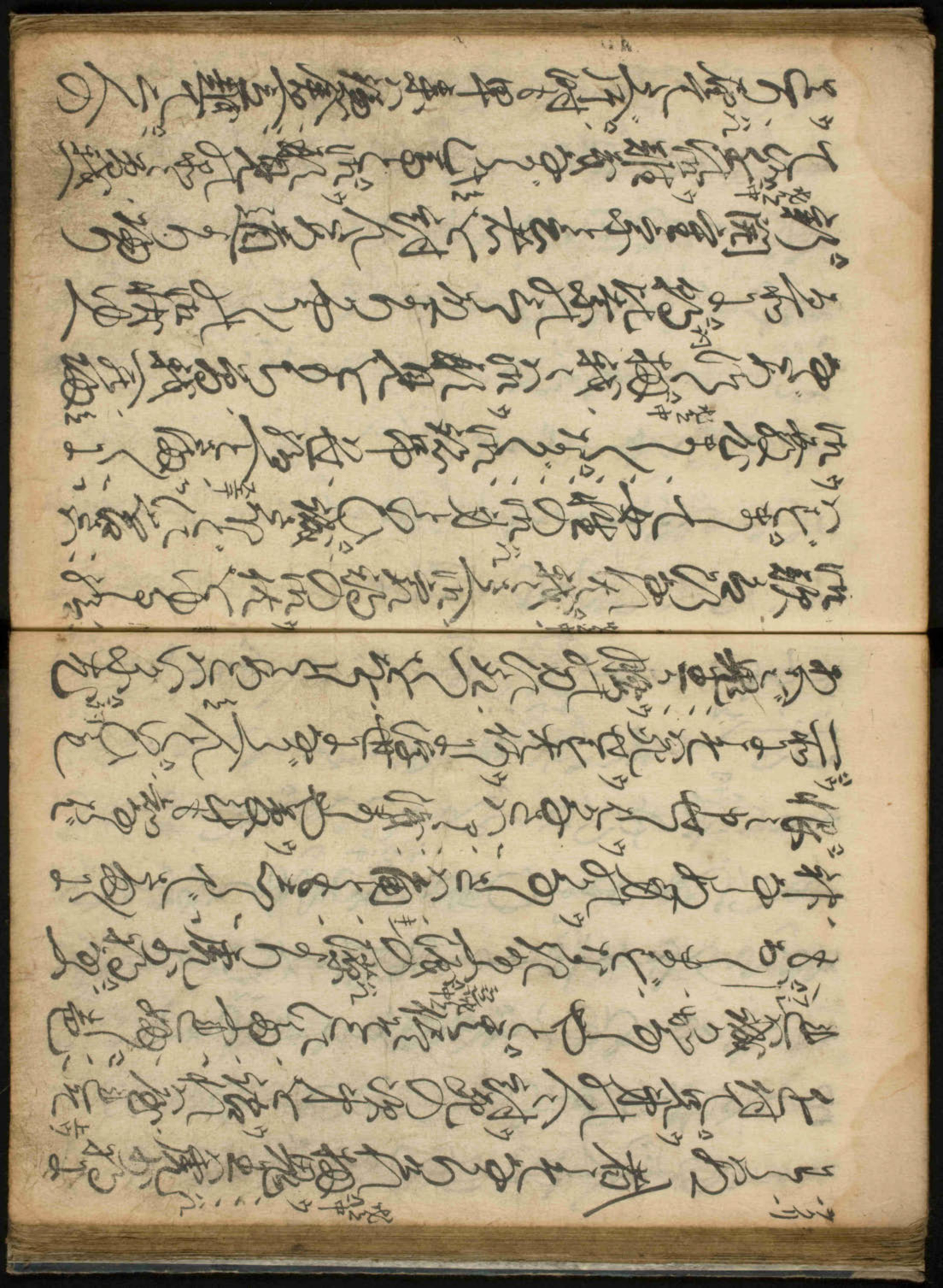
[illegible]

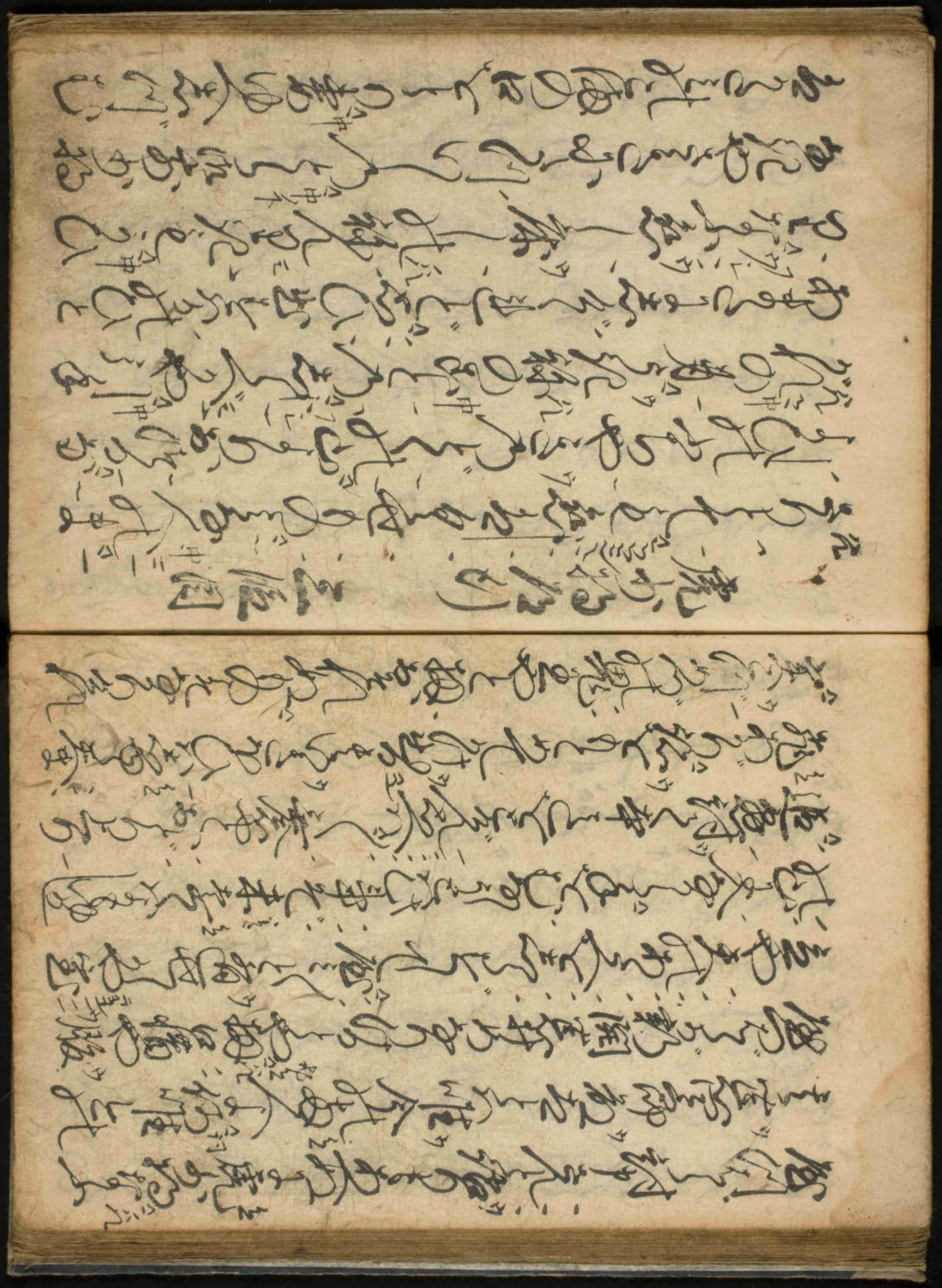


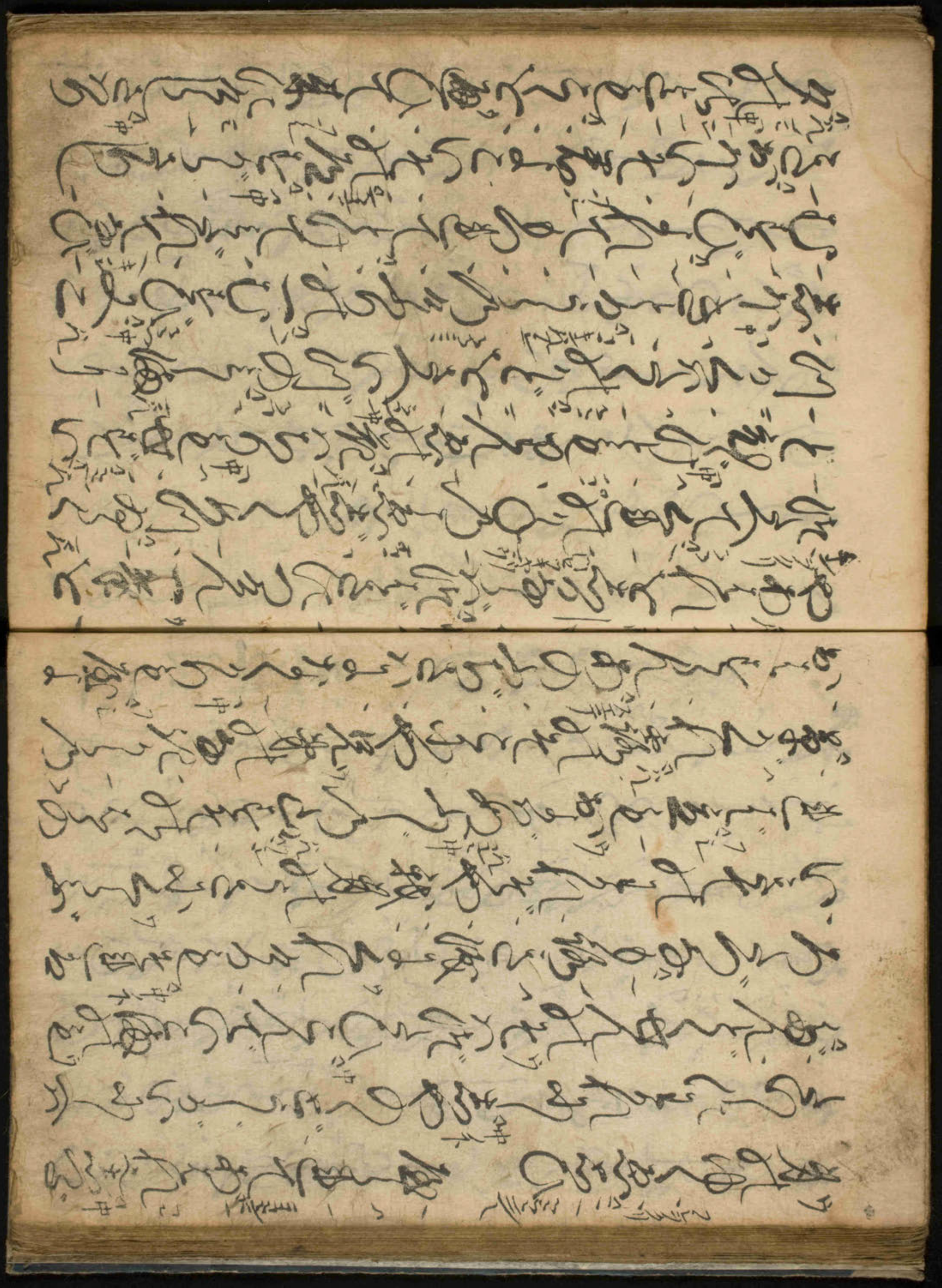
人世ものとしてもあるべき世なりひがいざこを合て
ぬるべきやうなる事にあるべきひの　こと
とうるものなる彩色言新開の三宮の高井
の為に三宮ふかい物ばかりの家の内の赤子乳をしたく
ものなる彩色義ばかりとわるべき振舞
ものなる彩色もとどめ捨ものなる彩色
ものなる彩色虎がおそとうゆう
ものなる彩色二人とうくと後合けひ返
ものなる彩色ものなる彩色ものなる彩色
ものなる彩色虎がおそとうゆう
ものなる彩色虎がおそとうゆう
ものなる彩色虎がおそとうゆう

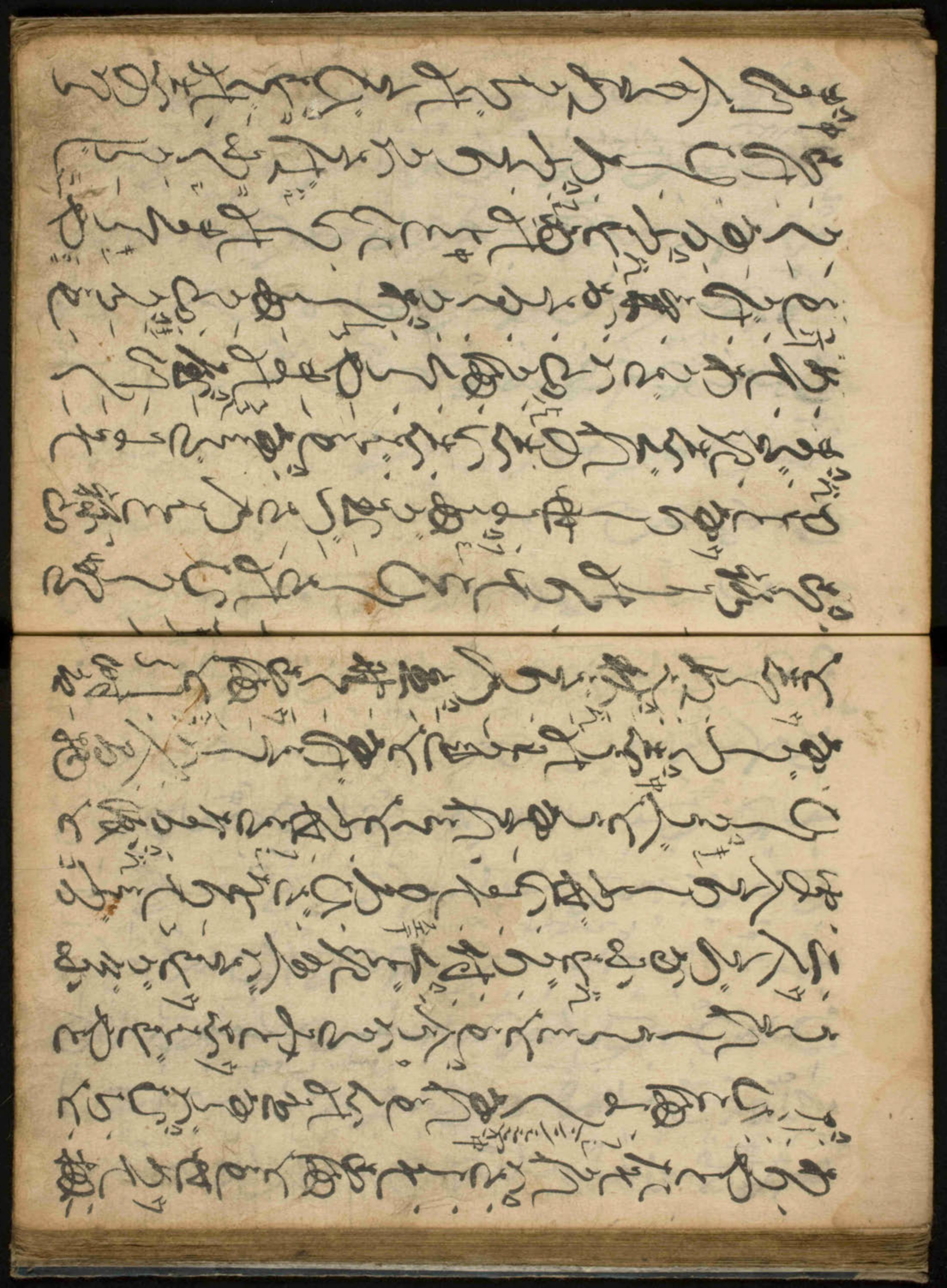








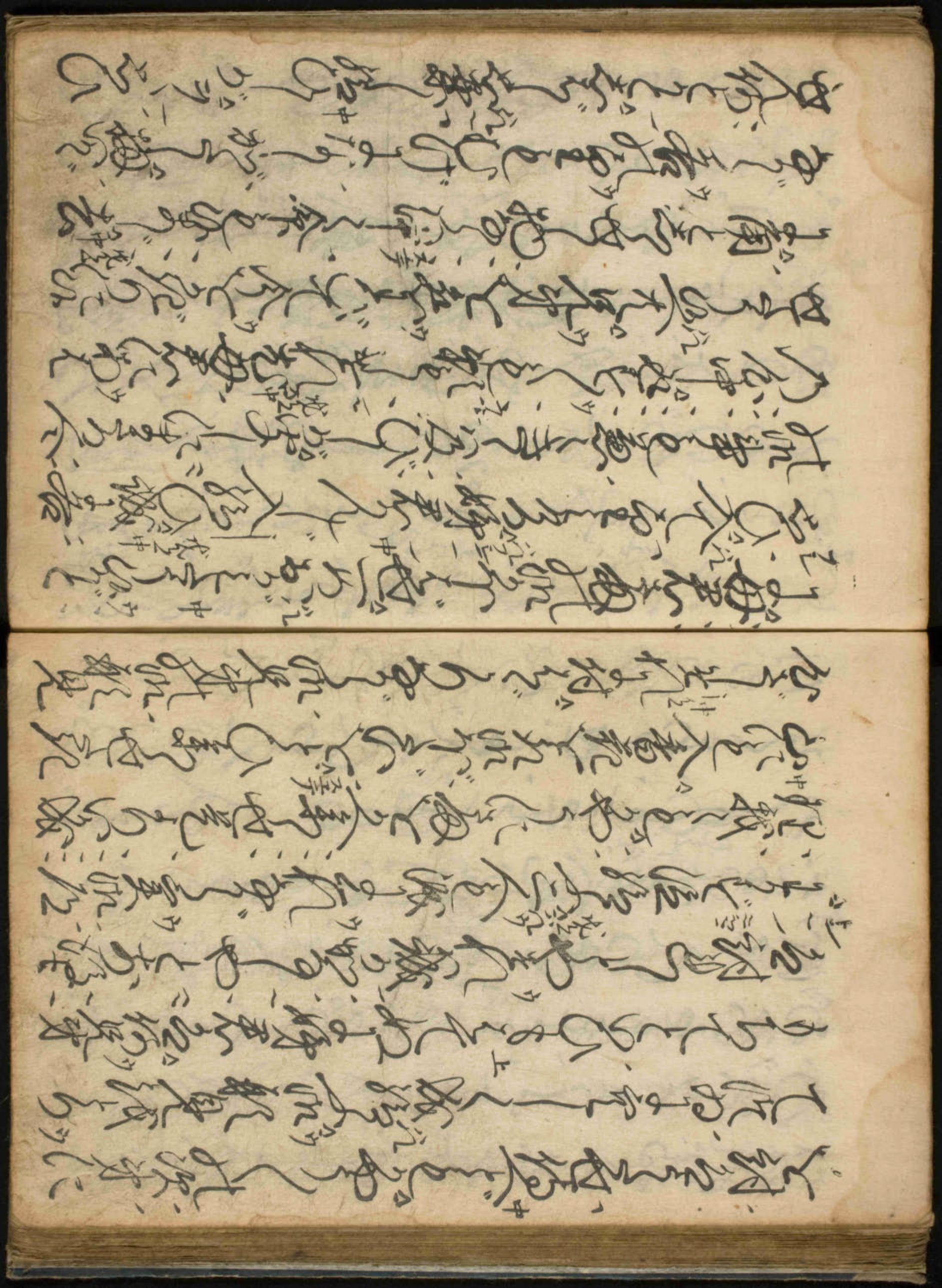


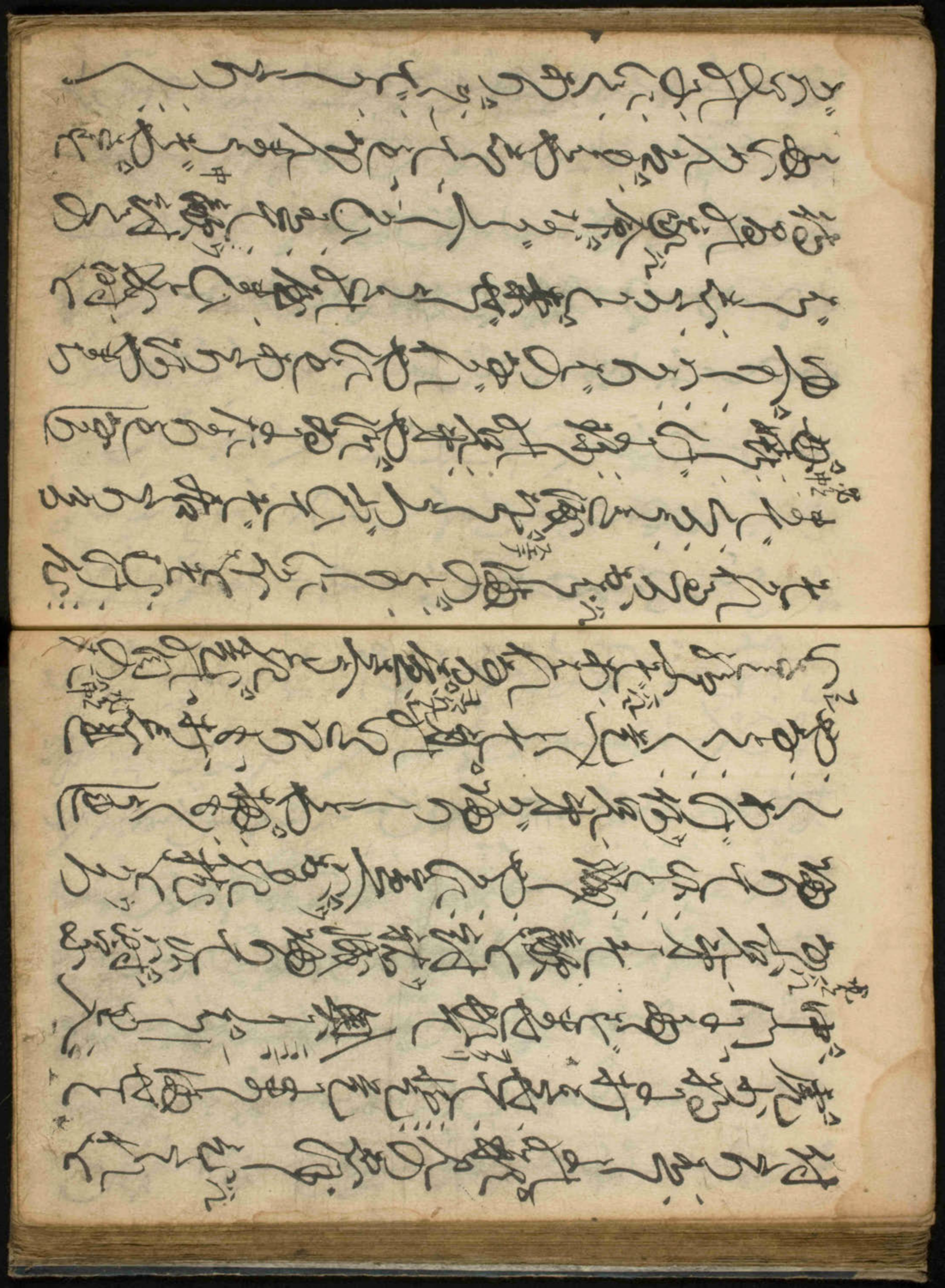


まことどもとも、ちかのもとびとよりとぶらひ
ものしたまへるに、ものはかなくなりぬること
をなげきあへるなかに、ものはかなくなりぬる
ものの、ゆくへもしらずまどひたるこころ
ちのみ、いとかなしくのみ、ものはかなく
いとどあはれまさりて、ものもとりあつかはず
ものもおぼえず、ものもいはれずもの
いふこともいとよはくなりぬるこころ
ちのみ、ものもとりあつかはずなりぬ
なりぬるこころちのみ、ものもとりあつかはず
なりぬるこころちのみ、ものもとりあつかはず
なりぬるこころちのみ、ものもとりあつかはず

見てわれとどうの義兄弟なれば
私經と対して二人うだの出よりの者
りわれどもとうしれあるとうれば
しまうむ落ちるわれだ十命立て
やうれで対ふ立てやと結せの見もよう
そそ弟手うれりの屋まふの家をれたく
の城の主の弟妹れ前女房を迎へまも
義よりの人をれてれりも見あうりも

間出家物語りれなやどれとどう
なぐあわせどもと八十にち見むの波折
りものも宝どもどあり　あるれ
ぞの見くの虎が門ようそどみく
波なぐてあるとあ形見二代の妹出れ
わるいそそとれ見人どおてやうの女房
かちやくとてやう見人職の虎人へ
ひ坂なれるも若そ弟人へ新私經

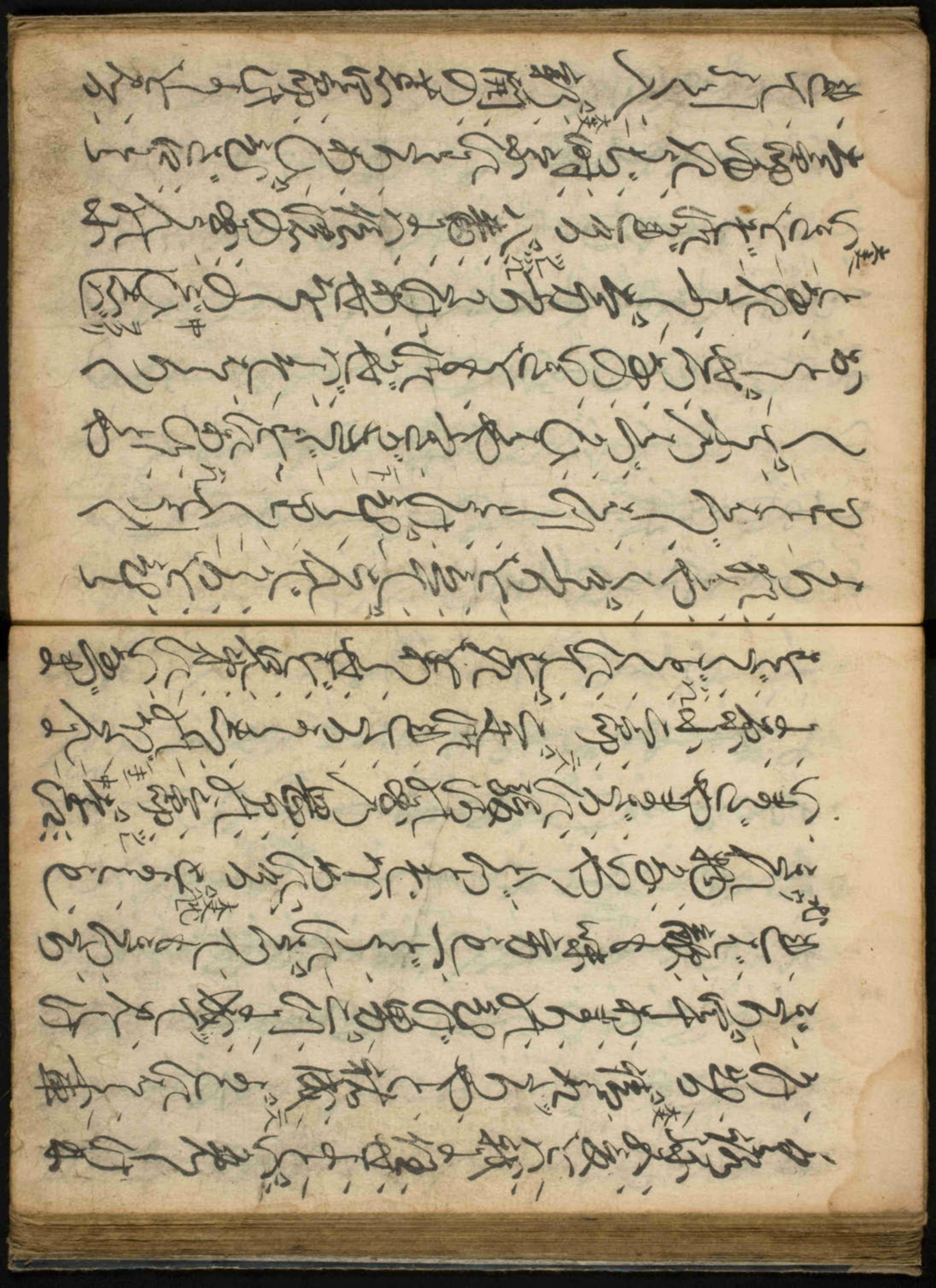




[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

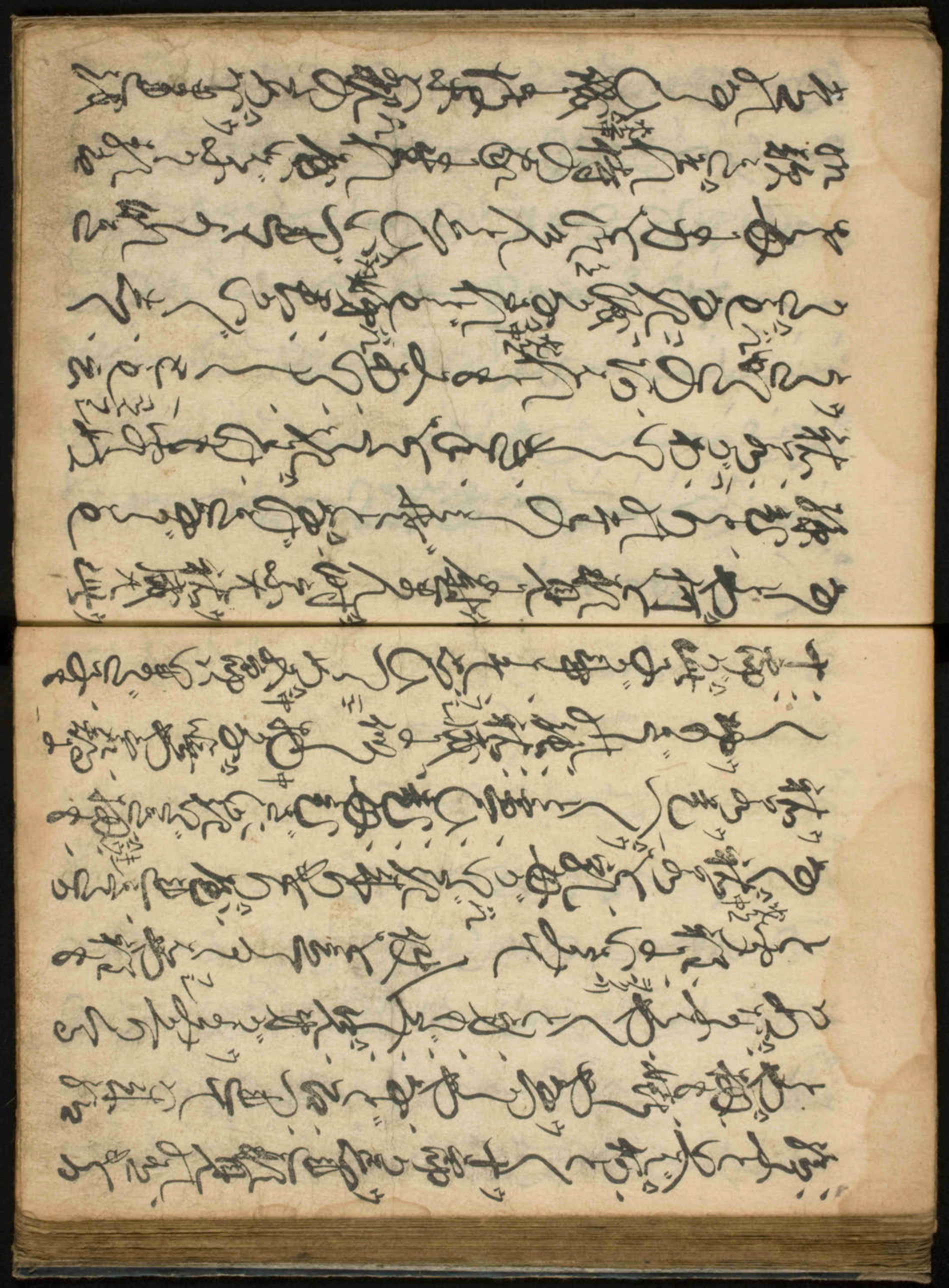
の称、けうくさうこの
きうヨ文中 文は平家の
名ゆくゆくと
名ゆくゆくと
名ゆくゆくと

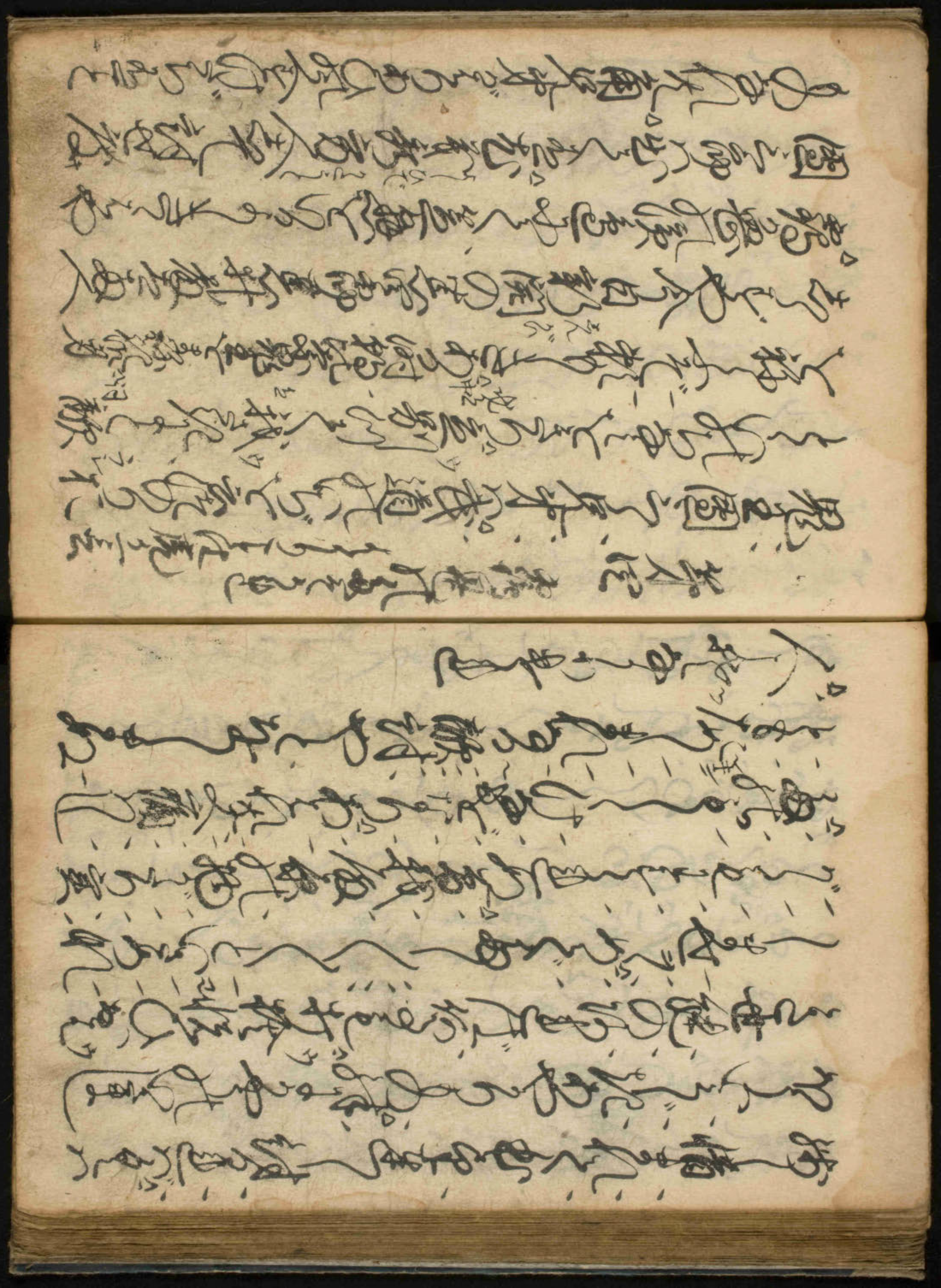


うちとりて見れば二人でありけり
あるにこそ
あらめ
あるにこそ
あらめ
あるにこそ
あらめ

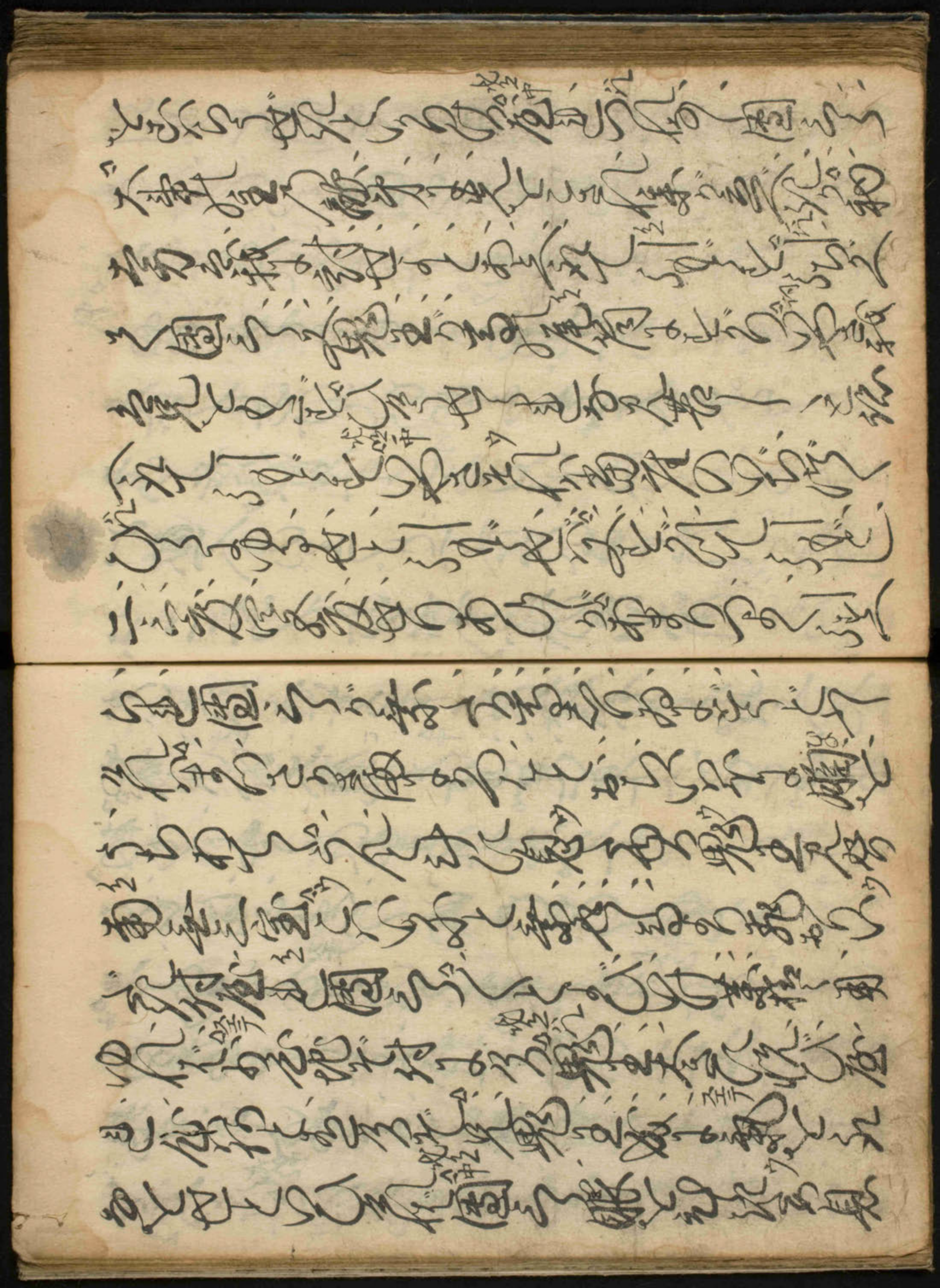
いけども、天の目のあたりなるものの、ながれ来れる
ふくれ、ひとつ、おのれ、なぜ、兄弟一人と思ぐ
たまつ、ぬ、縁のとそ、ゆ、ま、ま、ま

[illegible]
しをれさせ給ひ
くなるまゝにかの
[illegible]
[illegible]
[illegible]





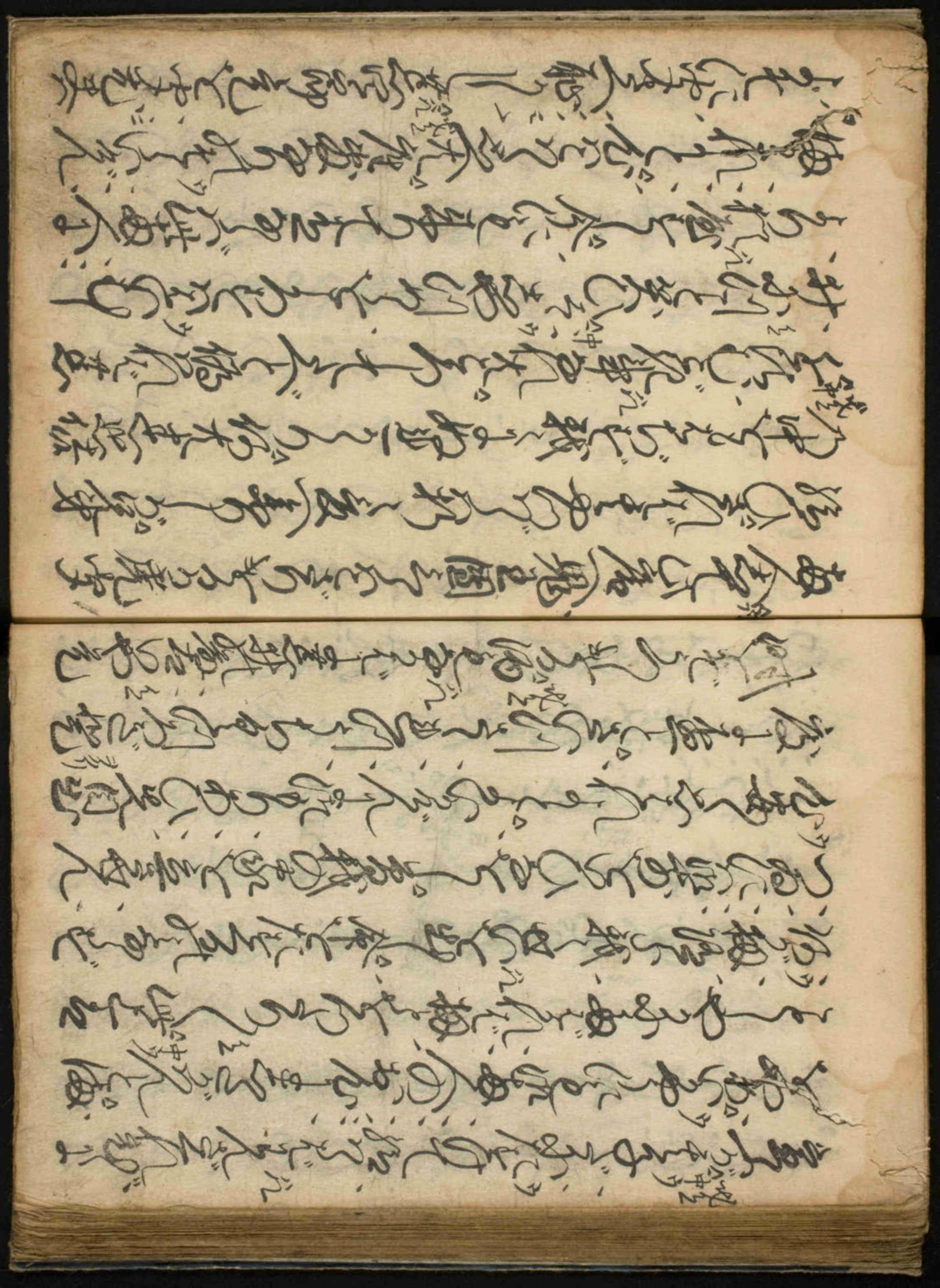
いとれうに討ちかけ給ふよ急ぎ〳〵と申し給ひ
ものしなれば此家のあるじ扣へうろたえ
なるべきやうもなく急ぎ鬼王を召し
城よりの雑色これらに出でいでこと〳〵
さわぐべき事一定相備はるべき事
それとおぼしきひとりにてもなる和歌
と書き留めて急ぎ高野の新関の
基に荒井の松まで家ぶまぎらはしに急ぎ
とて家にてあるべき我の御所三御所を
は歌人のものがたりと字に急ぎ来れいとと和尚
家に我は見ると言ひ
見ぬとて帰りて後わとと
あの色どもとわが色遅急ぐ
鬼王に見て
さえよりつて国に
りどと国に大き



とうとうとして鬼を屠ってこれを鬼屠
鬼まつりといふ歌を討ち奏する間おそ
ちがえるまでうろ覚えとなん
ぬ
ぬ
ぬ

ゆるせ　こまいぬ　ひざんなる　ものと　梅王新開の　さまを　見て

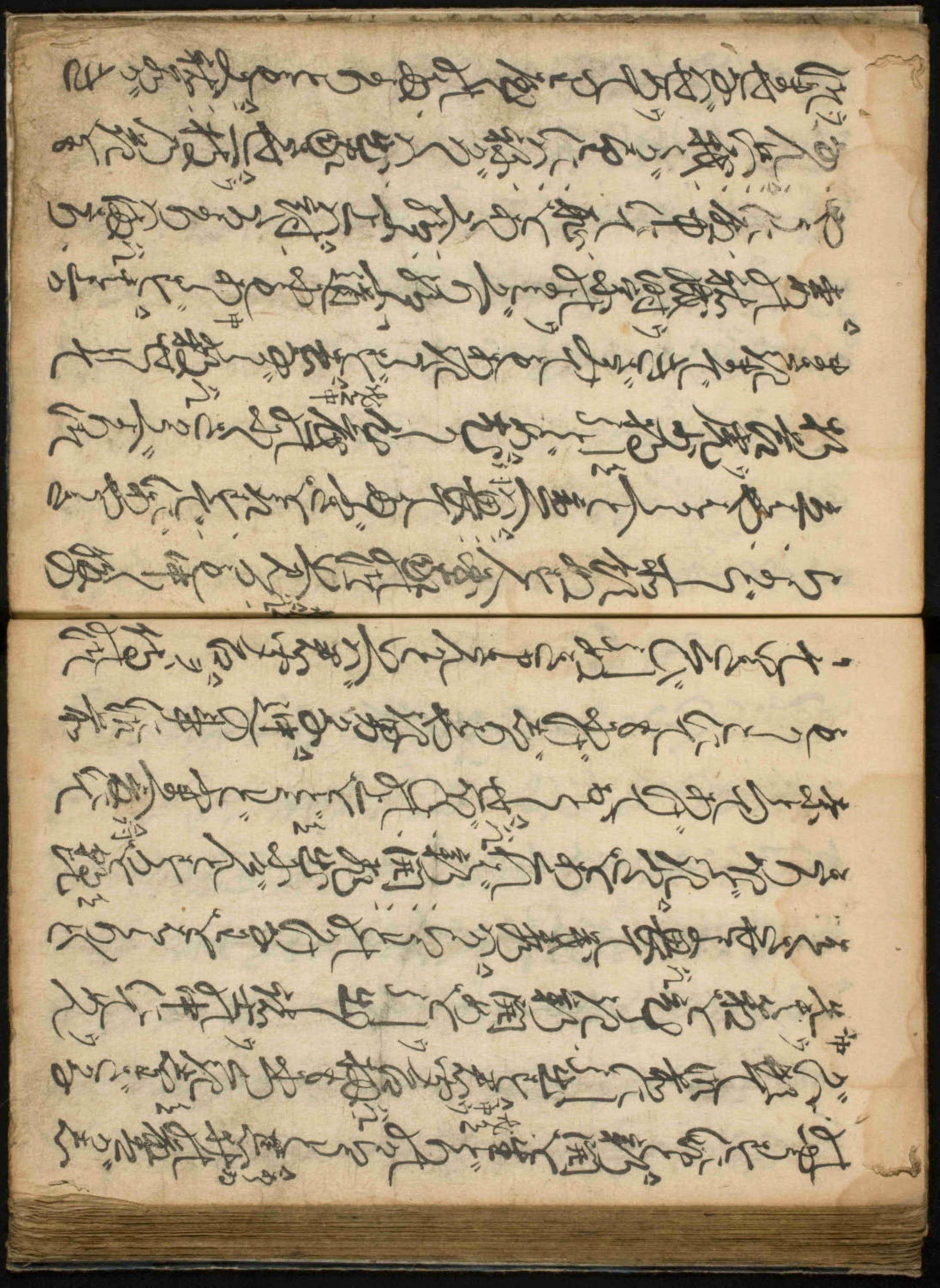
手にて我ひとりまもり
いのちをもてうしなへ
独よりとり対たる
ぎく行て
さとが
よくくとりて
やのあくいつど
れ
あるとこれ
あるやあ
ひとりとり
あるこれ
ものとこ
ろとも
よ
もと
ほよ
くろ
ぬ
ぎ
ぬ
ぬ
ぬ



[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふくとみるとおもへば二人の新門のしゝ
はべ二三人ばかりとおぼしき人ども
ゐなかの中ばかりの武士
若き男ども
ばかりどもの
れたる奥の板のもとに
ゐたる女房
ゐたるひとり
て死のうの男でもの
ばかりおぼしき侍一人
とおぼしき死人
ゐたるとおぼしてそ
中もろ武者ども
まして死のあるやう
ゐたるのうそ
たよう能も男ども
ぬけ
ばかりに
ゐたるとも
ゐたるとも
ゐたるとも

門に見参まうさんとて、
[illegible]
いとまごいも云はずして、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

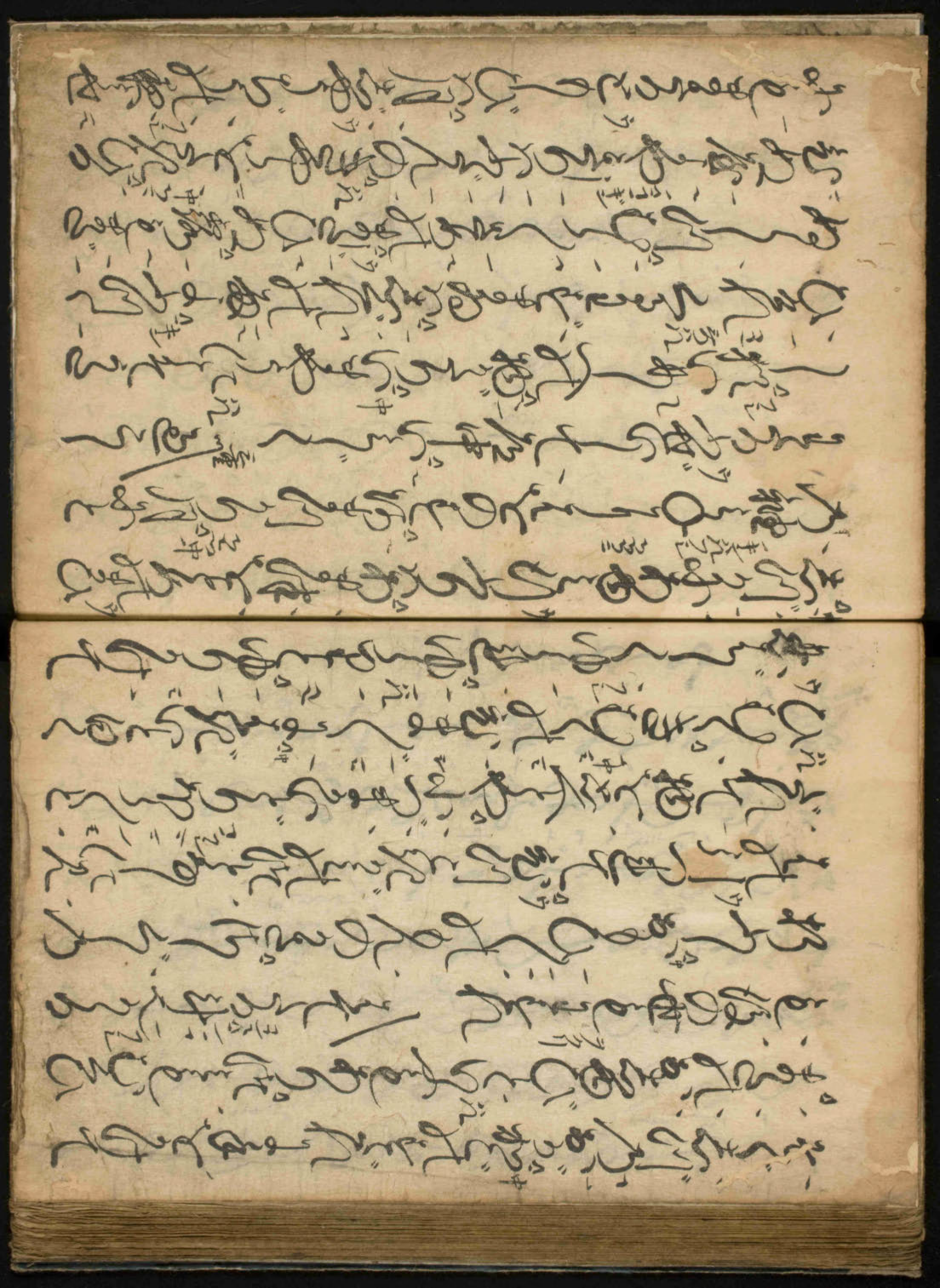


[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



うちわるもの、ものくるるもの、そ、ぬ、ぬ、
ぬ、ぬ、ぬ、

ぶんと立波ごとうくくうくくう
さてなるやまがれとひろうりみうるの
ぶうるれぐきよりうよりはるもれるるもう
のみちうるもるうきくるるるのさやたそ
うぶうるはてれよりはるはるはるでれはるはでは
まうふ夜のあけがるれるはるはびさ
れさるるざとうるうるりびあうぶうるのうれな
どうるうびあれとぶれはるはびそるるれとび
むれるのぶうるれうるうるれるるるびうるれるるる

まなびておやこともあひ立ちかさ
ねあとよりそりぐ[illegible]おわりぐ[illegible]
おもくとも千秋万歳栄えたりとも
なりつくしてそりはなりけり

天和三 癸亥 葉九月吉日

右此手者依小子之願望附秘密
音節自遂校合令開版者也

加賀掾

二條通寺町西入町
山本九兵衛刊

110X
208
1